

遠山展望

2026 年 1 月 27 日

野中健司

渡良瀬遊水地越しの遠山展望

遊水地のびょうびょうたる自然と共に、古河市民にとっての原風景として存在し、親しまれています。

そして、この連山の眺めの美しさを田山花袋は「田舎教師」の中で次のように描写しています。

関東平野を環のように繞つた山々の眺め一其眺めの美しいのも、

忘れられぬ印象の一つであつた。

秋の末、木の葉が何處からともなく街道を転って通る頃から、

春の霞の薄く被衣のやうにかかる二三月の頃までの山々の美しさは特別であつた。

雪に光る日光の連山、

羊の毛のやうに白く靡く浅間ヶ嶽の烟、

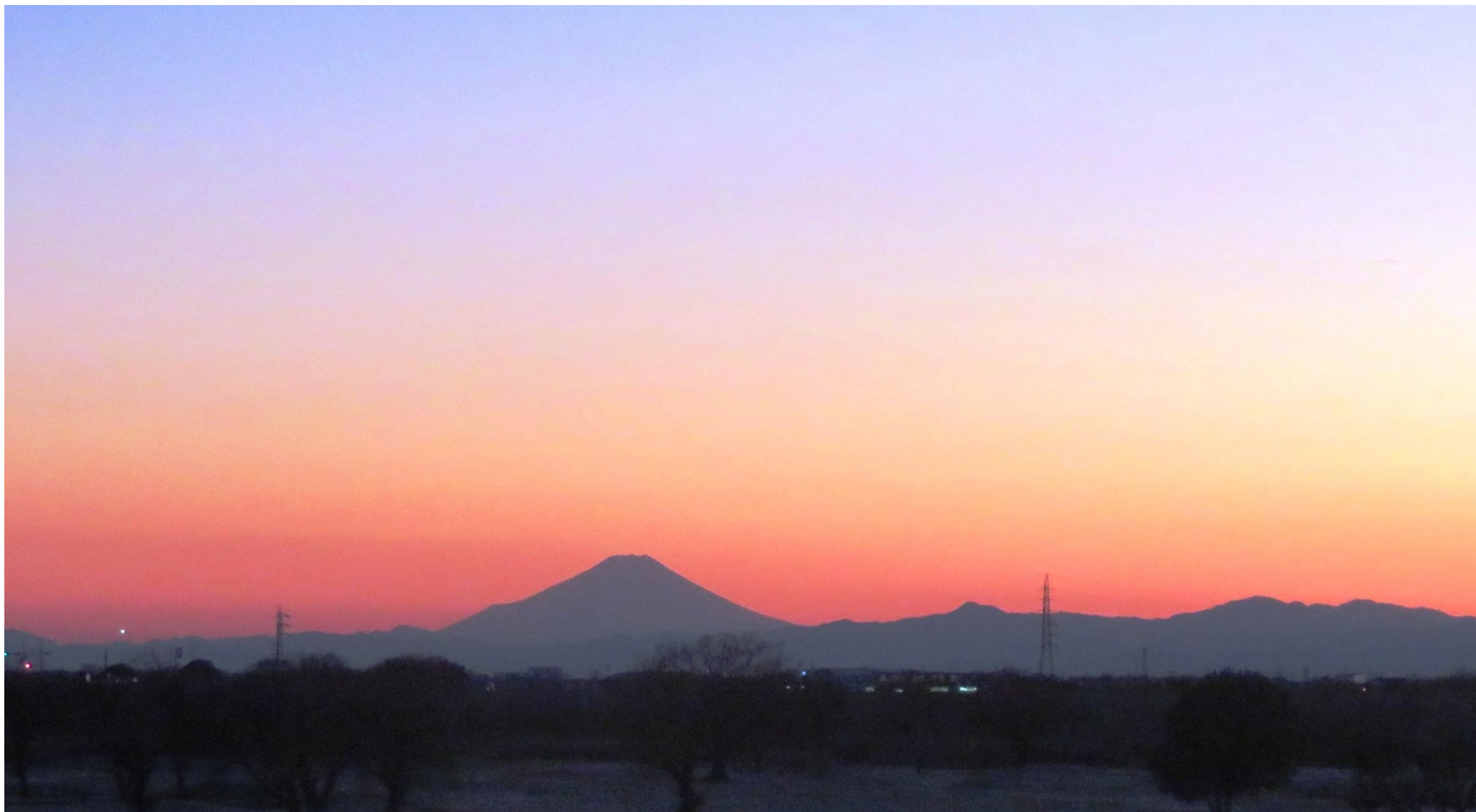
赤城は近く、榛名は遠く、

足利付近の連山の複雑した襞には夕日が絵のやうに美しく光線を漲らした。

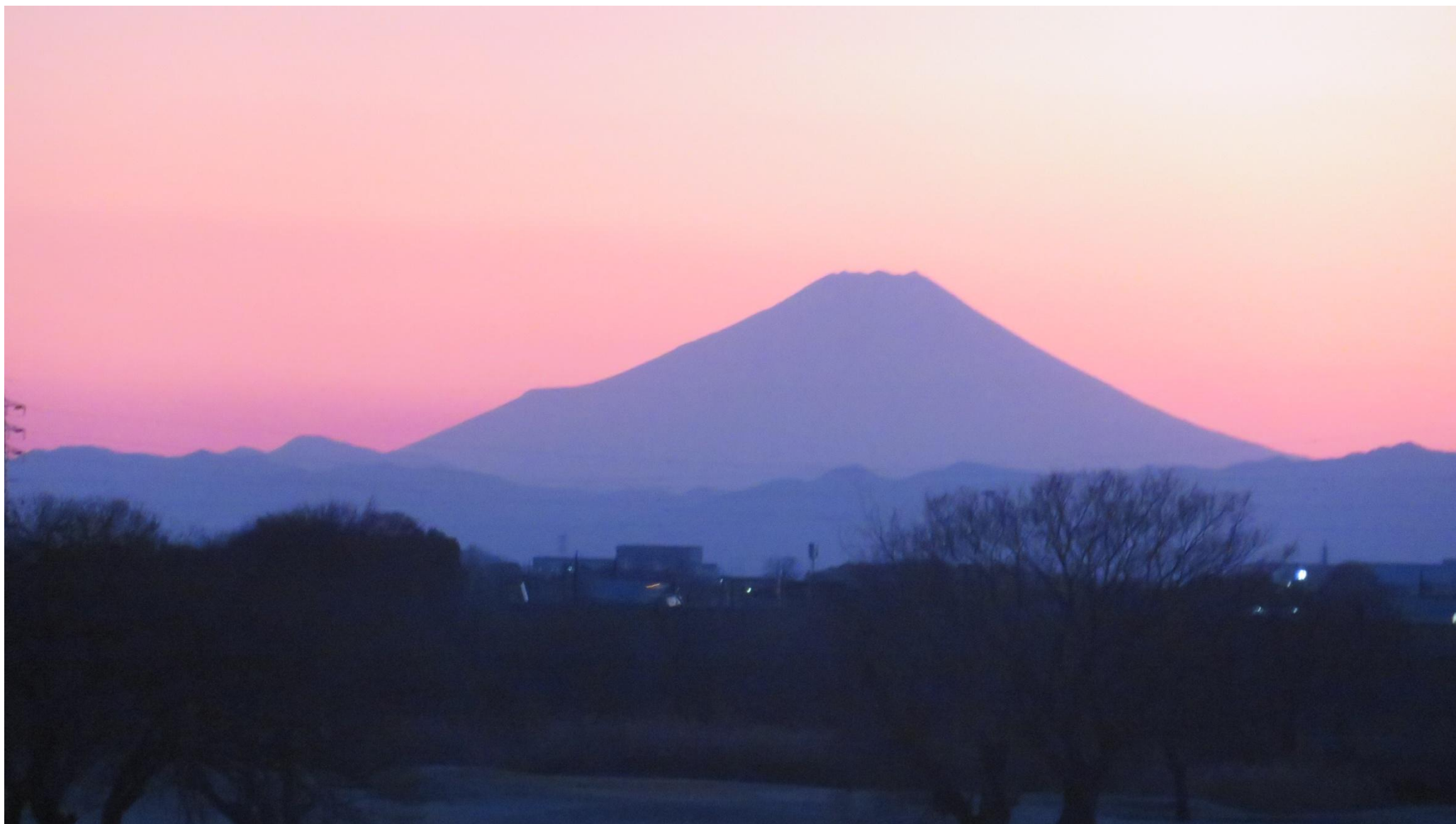
＊ 「田舎教師」では、時代は 1900 年前後、行田から熊谷付近の眺望を描写したもので、まだ遊水地が整備されてない時代の遠山展望ある。



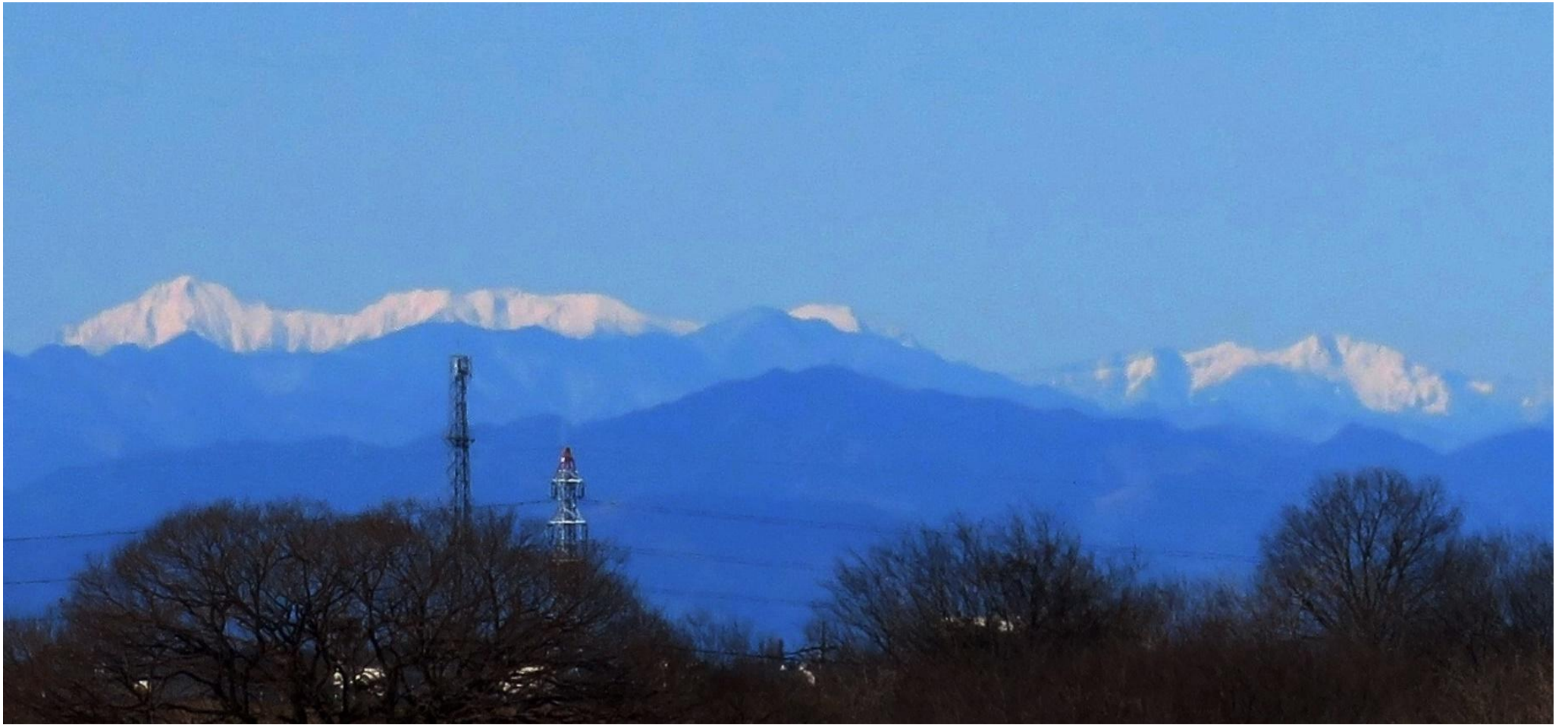
冠雪の富士山 渡良瀬遊水地越しの眺め



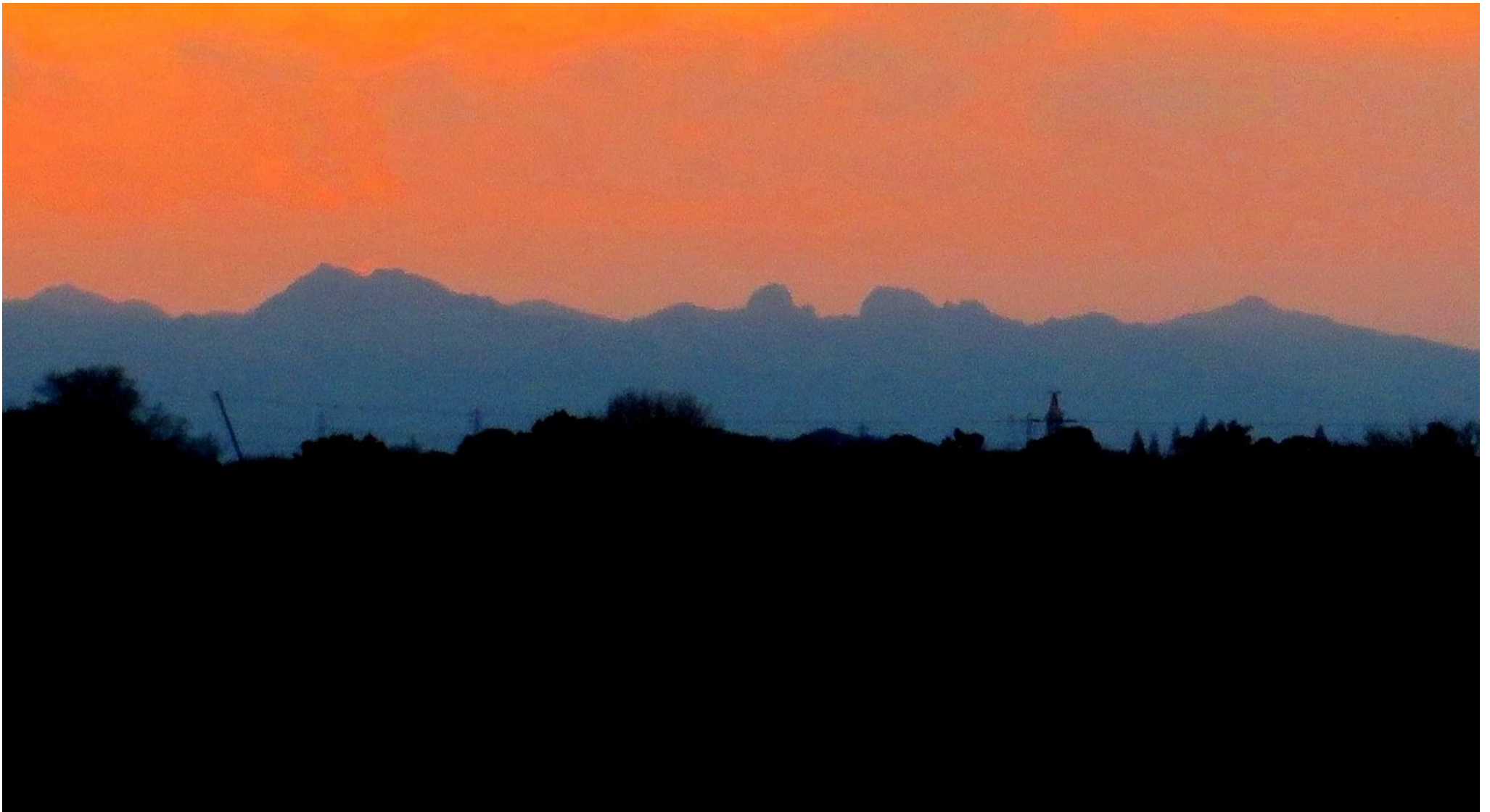
影富士



影富士(拡大)



秩父連山の奥に冠雪の山並みが見えた。方位からすれば、八ヶ岳連峰か？



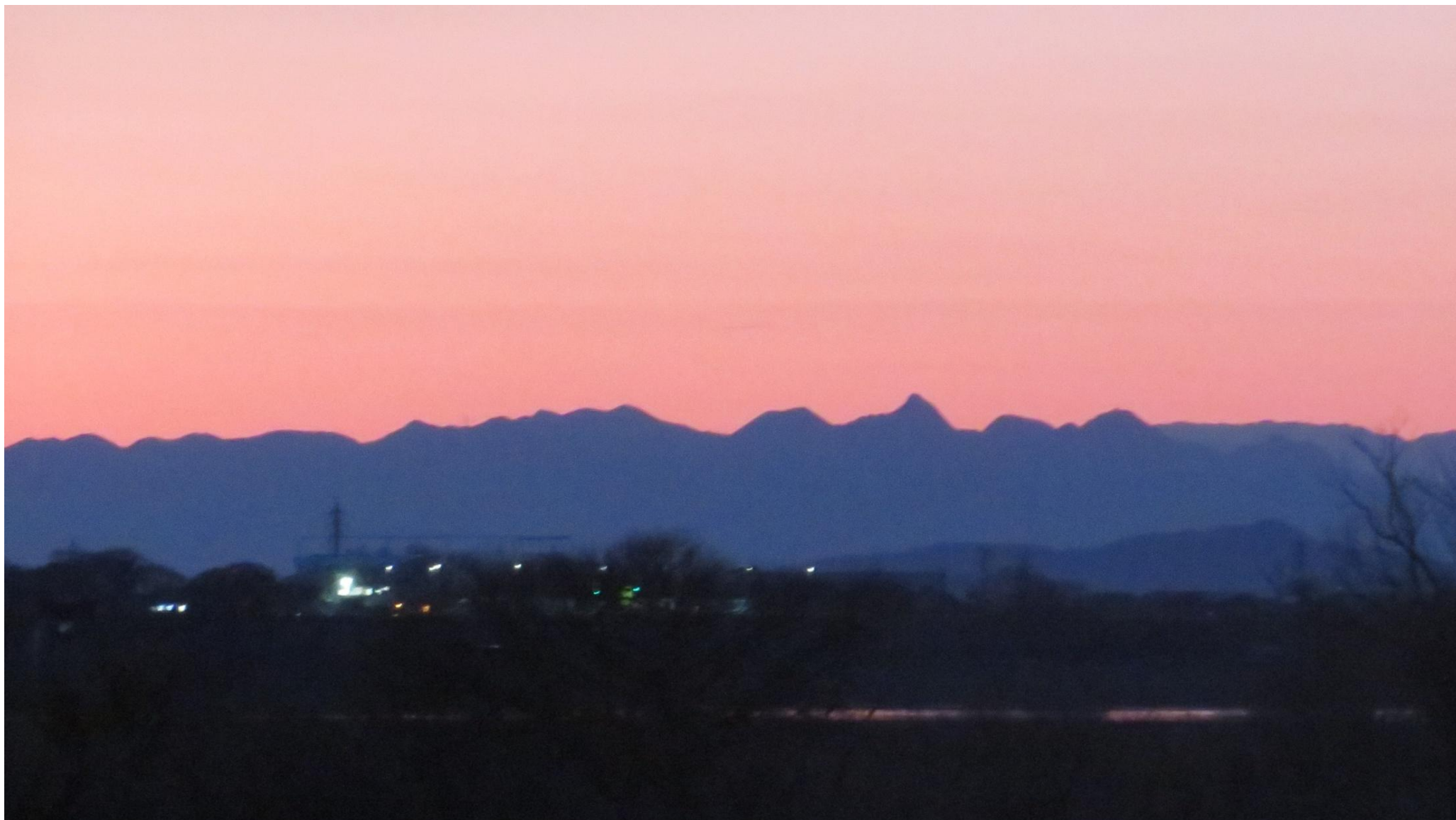
妙義山 最高峰は、標高1104m、鋭く切り立った岩峰がつながる奇岩、怪石の山
赤城山と榛名山と共に上毛三山のひとつとされ、日本三大奇景の一つにも数えられる。



冠雪の浅間山 「羊の毛のやうに白く靡く」とあるが、この日の浅間は煙を吐いていないようだ。



渡良瀬遊水地越しの眺め 夕日の左端の低山が妙義山、堂々とした姿が浅間山である。



榛名山 上毛三山の一つで、山頂にはカルデラ湖（榛名湖）があり、榛名富士（1390m）を最高峰に
掃部ヶ岳、天目山、尖った相馬山、烏帽子岳、^{びんくしやま}鬢櫛山などの他、多くの峰をもつ複雑な山容を見せている。



赤城山 カルデラ湖(大沼)を伴う成層火山で、複数の山頂を持つ連山の総称である。

左から、鍋割山、荒山、長七郎山、地藏岳、鈴ヶ岳、駒ヶ岳、黒桵山

最高峰は黒桵山（1828m）である。



奥の冠雪の山並みは、左の皇海山、右の白く輝く山が日光白根山である

手前の低山は、万葉集にも詠われた「三^{みかもやま}毳山」であ



冠雪の日光白根山（2, 578 m）



日光連山とは、一般的に、白く輝く日光白根山から
男体山、女峰山、大真子山、小真子山の山塊の全体の眺めのことである。



左から男体山・2486m、女峰山・2483m、大真子山・2375m、小真子山 2323m 含む山塊



渡良瀬遊水地越しの眺め

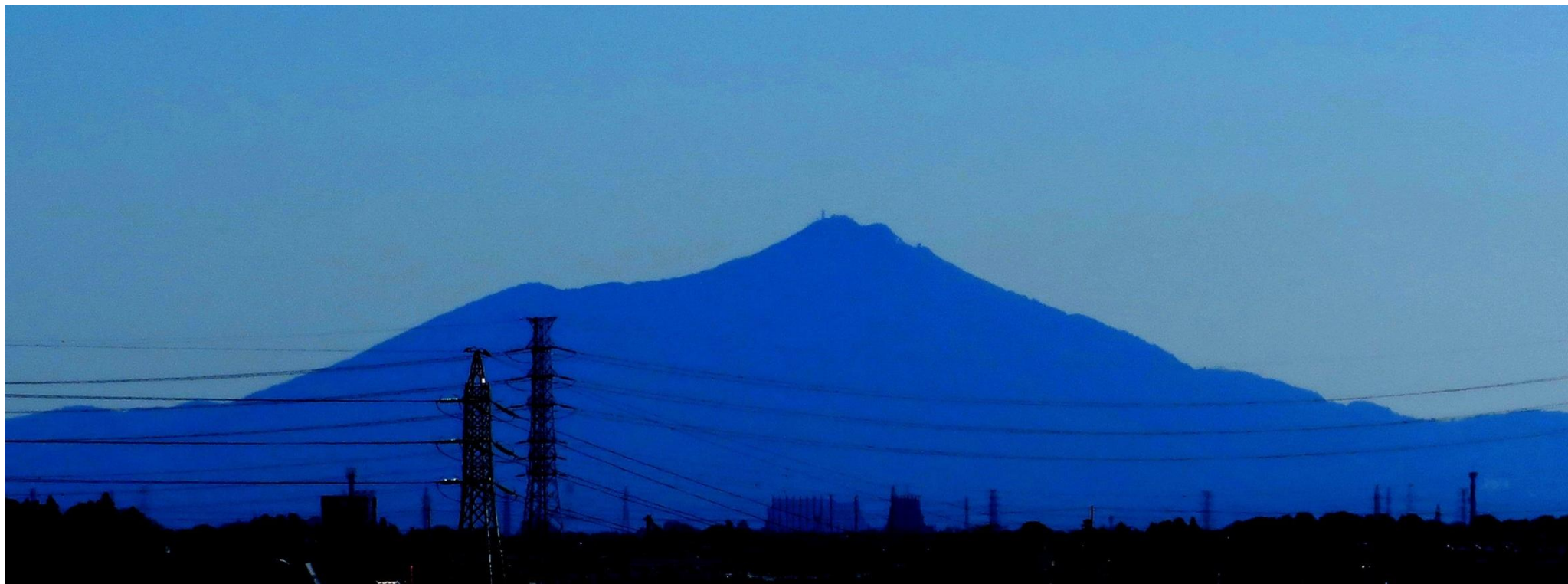
右の冠雪した奥に見える山々は、高原山（鶏頂山・1765m、釈迦岳・1795m）？

手前の低山は、太平山



渡良瀬遊水地を背にして、ちょうど真東に「筑波山」を望むことができます。

筑波山は、農閑期の行事として大規模な歌垣が行われるなど、古代から人々の生活の中にあり
万葉集にも詠まれている。



筑波山は、古河から拡大して望むと、山頂の左に男体山(8 7 1 m)と右に女体山(8 7 7 m)が重なるようにほんの少しずれて見える。女体山の右直下の突起は屏風岩である。

左の鉄塔の上の峰は坊主山 (7 0 9 m) である。

筑波山を真西に望む古河市民にとっては、この山の姿が、筑波山である。